

# 「みことばに生きる」

(2テモテ 3:10-17)

## はじめに

1. 2テモテ3章の流れ 「終わりの日に備えて」
  - (1) 終わりの日の人々の様子 (1-9)
    - ① 自分を愛する者 (1-4)
    - ② 真理にそむく者 (5-9)
  - (2) 敬虔に生きことの勧め (10-17)
    - ① 模範 (10-13)
      - ・ 迫害や苦難の中でパウロについてきたテモテ
      - ・ 12節「キリストにあって敬虔に生きようと願う者は迫害を受ける」
      - ・ 13節「悪い者はますます悪に落ちていく」
      - \*だからこそ、14節でパウロはテモテに「**とどまるよう**」勧め
      - ・ **どこに?** 「学んで確信した所」 = 「**聖書**」
      - ・ 理由 (14b-15a)  
誰から学んだか知っているし、幼いころから**聖書**を知ってるから
    - ② **聖書 (15b-17)**

## ポイント

1. 聖書は、知恵を与えることができる。(15b)  
どんな「知恵」?  
→ イエス・キリストに対する信仰によって救いを受けさせる (至る)
2. 聖書全体は、神の靈感によるものである。(16a)  
「神の靈感」とは?
3. 聖書全体は、これらのために有益である。(16b)  
教え、戒め、矯正、義の訓練
4. 結果：神の人が十分に整えられた者となるためである。(17)
  - (1) すべての良い働きのためにふさわしくなる。
  - (2) 口語訳「それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にととのえられた者になるのである。」
  - (3) 新共同訳・協会共同訳「こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです。」
  - (4) 岩波訳「神の人があらゆる良き行いをするために(必要な)準備を整え、(精神的な)適性を身につけるためにも。」